

「新潟市新焼却施設整備に係る環境影響評価準備書」に対する質問等への回答

資料 3

【 その他意見 】

| No | 環境要素等 | その他 | 【事業者】回答 |
|----|-------|---|---|
| 1 | 全体 | 「環境影響評価結果」の多くで、「予測結果」が「現況」とほぼ同じか上昇するという結果は望ましいのでしょうか。新施設は、現況より予測値が改善することを多くの市民が期待しているのではないかと思います。 | 排ガス等の施設の稼働については、安全側で考えるために予測値が高くなる状況として、「現施設の稼働による影響」が含まれる現況結果に、「新施設の稼働による影響」を寄与分として足した数値を予測結果としています。実際には現施設と新施設が同時に稼働しない計画であり、また新施設では現施設と比べ同等またはより厳しい排ガス等の基準を設けるほか、騒音・振動についても適正な環境保全対策を講じることから、新施設のための環境に対する影響は、準備書に記載の予測結果と同等または小さくなるものと考えられます。 |
| 2 | 全体 | 本準備書で「安心、安全」、「安心」の記載が各所にあります。本準備書は技術面からの説明であるため、本来は技術面での科学的裏付けによる「安全」があって「安心」となるのではと考えます。従って安全が先で「安全、安心」ではないのでしょうか。国の説明関係でも技術を伴う時は「安全」が先で次に「安心」が出て「安全、安心」と説明しております。新潟市はあいまいで「安心、安全」の順の記載が多いようです。 | 基本方針は、「新焼却施設整備基本計画」で定めたものを本書で引用していますので、ご意見として今後の参考とさせていただきます。 |
| 3 | 全体 | 「新施設の基本方針」の「安全・安心」の内容を資料編で確認したところ、「安全」を謳うものではなく「安定」という文言をそのまま用いた方が、誤解を招かず、市民が正しく理解するためにふさわしいと思われます。 | |
| 4 | 交通量 | 焼却施設は姥ヶ山ICに近いため、廃棄物運搬車両の運行ルートには平日通勤時間帯等に渋滞が起こりやすい路線が含まれています。騒音・振動の予測の一環で、一部地点における交通量の増加が報告されていますが、通勤等に利用する道路の混雑状況の変化は近隣住民の生活に影響を与えることが懸念されます。計画台数に基づく予想交通量について、時間帯別に（あるいは集中する時間帯などを）示していただけると理解しやすいように思います。 | 廃棄物運搬車両の運行が渋滞路線に与える影響の程度が明確となるよう、評価書において、時間帯別の予測交通量をお示します。 |
| 5 | 文化財 | 新潟（蒲原・越後）平野は沈降しており、以前にも深層の調査が望まれると述べました。上越ではGLマイナス4mの地層から考古遺物（埋蔵文化財）が確認されたと報道がありました。当該地ではマイナス3.5mの深さまでの調査との答弁でした。専門の部署の歴史文化課の経験豊富な専門職員の見解ですから、砂丘間低地での遺跡立地の可能性は確かに低いと考えられます。ただし、考古学は何が出るか分かりませんので、開発時（工事中）の深層掘削に当たって、安全性に配慮した専門職員の立会いを希望します。 | 歴史文化課において、試掘調査や過去のボーリング調査結果等から文化財保護上の取扱いは不要と判断しているため、ご意見にある立会いは予定していませんが、工事にあたり新たな埋蔵文化財が確認された場合は、同課と協議し、適切に対応します。 |
| 6 | 動物 | 家族単位で行動するハクチョウは、若鳥が親鳥と行動を共にすることで、学習を行います。施設周辺を飛行するハクチョウ類にとっては学習に基づき衝突を回避する行動をとっていることが推測されます。新施設の煙突の高さが現在の施設と同じであるという点はハクチョウの飛行、安全確保にとって良好であると考えられます。バードストライク低減のために反射ガラスの使用削減を計画していただいた点を評価させていただきます。 | 本書に基づき、ハクチョウ類への影響低減に努めます。 |

| No | 環境要素等 | その他 | 【事業者】回答 |
|----|-------|--|---|
| 7 | 計画 | <p>新施設の基本方針で「環境にやさしい」とあるため、この施設を環境教育、普及啓発の拠点として位置付けする必要があると考えます。具体的には学習、研修の場所としてゴミの削減（リデュース）の推進、さらに緑地にビオトープや地域の樹種の植樹など、地域が関わり市民が学ぶ施設を併設する必要があると思います。現在新潟市にはエコプラザなどがありますが、内容的にCO₂削減に直接つながるようなものはあまりありません。</p> <p>基本方針には是非、気候危機や生物多様性危機に関する講座の充実や、地域、小学校、中学校などの教育機関に提供できるコンテンツを持った普及啓発機能が不可欠であると考えます。</p> | <p>現施設では主に小学生を対象に見学を受入れており、新施設についても継続する計画です。見学の中でごみ処理に関する説明に加え、ごみの削減・分別等の環境啓発も実施する予定です。</p> |
| 8 | 計画 | <p>焼却炉設備は近隣地域住民は、その必要性和恩恵を多々受けていることを理解されつつも、一方では迷惑施設と考えてしまう側面もあります。</p> <p>これからの時代は“地域の方々から喜ばれる、歓迎される施設のあり方を考えるべきではないでしょうか。</p> <p>緑が多く、木立には散歩が出来る小道があり、春には雪椿、カタクリの花、二輪草の花、雪割草の花などがみられ、木々には小鳥たちが大好きな“実”のなる樹木もあるような緑のある施設を考えることが大切ではないでしょうか。白鳥の飛行コースだけ避けられるかを考えるだけでは発想そのものが寂しく感じられます。</p> <p>市民が木立、花を楽しみ野鳥を観察できるような新しい焼却場施設環境を創生していただきたい。</p> | <p>建設業者決定後に敷地内における建屋の大きさや配置が確定するため、現時点で緑化についての詳細は未確定ではありますが、「新潟市公共施設緑化ガイドライン」に基づき、対象事業実施区域内で緑化率を25%以上とする計画です。また、建設業者決定後の詳細設計において、「新潟市景観計画における景観形成基準」に基づき、敷地内及び外周部に植栽を施し周辺との調和を図ります。</p> |
| 9 | 計画 | <p>本施設更新にあたり初期に行われましたアセスメント（あまりにも短い時間の調査でした）で、コサメビタキ（スズメ目ヒタキ科の小鳥、新潟市及び新潟県準絶滅危惧種）が確認されています。コサメビタキは山地の森林で繁殖する希少な夏鳥で、春と秋の渡り時期には平野部に立ち寄り、樹木で休息や採食を行っています。現行施設周辺で確認されたことから、当該地域はコサメビタキに代表される鳥類の渡りのルートになっていることが推測されます。越後平野には林や樹高のある樹木が少ないことから、新しい施設を作るにあたり周辺に小さな木の実がなる広葉樹などの樹木を植栽して林を作ることで、鳥類の渡りの安定化に寄与できるものと思います。また周辺住民の方々にとっても施設周辺の緑化は新施設受け入れにあたり肯定的に受け止めていただけるものと思います。SDGsの観点からも施設内の緑化を提案いたします。</p> | |

【 質 問 】

| No | 環境要素等 | 質問等の内容 | 回答者 | 回答 |
|----|--------|--|-----|--|
| 1 | 全体 | 環境影響評価の考え方ですが、事業の内容に対しその環境影響を評価し、可能な改善策等のオプションについて、事業実施方式の諸元まで踏み込んで評価するものと考えております。 当該事業については事業実施主体が行政自身であることもあり、事業実施の方式について（焼却方式、煙突高さ等）、行政自身が設置する環境影響評価審査会に先駆けて、「決定」として伝えられています。 環境影響評価の運用方式として、評価内容に関わる諸元を上流にて事前に「決定」した場合、行政上の下部機関にあたる審査会は、当該事業による環境影響が評価基準を超えないか、つまり、違法状態にならないかについての二重チェックしか実質行わないことになり、多様な事業実施方式の検討を含む環境影響評価の考え方が形骸化しないでしょうか。 | 事務局 | 事業計画の決定主体は事業者となりますので、事業者自身が決定した事業実施方式の諸元等に基づき、環境影響評価が実施されることとなります。 環境影響評価における審査は、事業者が調査等を実施し作成した環境アセスメント図書に対し、調査・予測の方法や環境影響の程度、環境保全対策及び評価の妥当性について行われるものであることから、本事業においてもその観点において審査が進められてきたと考えています。 なお、環境に重大な影響を与えるような事業計画に対しては、事業者に対し、事業実施方式の諸元等についても意見を述べることが想定されます。 |
| 2 | 地域の概況 | 以前にも指摘したのですが、図3. 2. 17の凡例に間違いはないか、確認をお願いします。 図3. 2. 17のグライ土壌の分布域が図3. 2. 26の砂丘の位置と重なっていますが、砂丘がグライ土ということは考えにくいです。国土交通省が提供している原図に間違いがある可能性もあります。 | 事業者 | 当該図面の出典を確認したところ、凡例に誤りはございませんでした。土壌図は表層土壌の分布を示すもので、砂丘列上にも存在する水田域を捉え、グライ土壌と分類しているものと考えられます。 |
| 3 | 騒音 | 図7. 2. 10施設の稼働に伴う騒音予測結果は他と異なり、影響が同心円状になっていません。 1) この結果は現施設の存在を前提としたものでしょうか。もしそうであれば、現施設はいずれ撤去されると考えられることから、撤去後の予測も必要だと考えます。 2) 北側への影響が南側よりも相対的に小さくなっているのはなぜでしょうか。 | 事業者 | 1) この予測結果は現施設の存在を考慮しておりません。 2) 施設の北側に比べ南側への影響が大きくなっている理由は、主な音源となる設備（蒸気復水器、冷却水冷却塔）が南側に偏って配置されていること、当該設備を設置する場所の壁面がガラリとなっており騒音の透過が生じやすいことが要因となっております（図7. 2. 9(3), p. 7-161参照）。 |
| 4 | 景観 | 7-291 表7. 9. 3 のK4「新施設完成後の眺望景観の変化の状況」の後半に「新施設では工場棟の矩形の短辺側を視認することとなり」とモニタージュ写真を見ただけでは判断できない内容を記載した理由を教えてくださいませんか。 7-291表7. 9. 3 のK4「新施設完成後の眺望景観の変化の概要」欄の後半文中の「一方で高さがやや増して見えるものの、仰角の変化はごくわずかであり、変化の程度は小さいと予測される」の記述について、工場棟の仰角の変化量だけに注目して、道路沿いの眺望景観全体の変化の程度は小さいとした理由を教えてくださいませんか。 「新施設では工場棟の矩形の短辺側を視認することとなり、一方で高さがやや増して見えるものの、仰角の変化はごくわずかであり、変化の程度は小さいと予測される」の文言は、表7. 9. 3 のK1「新施設完成後の眺望景観の変化の状況」の後半にもあります。 | 事業者 | 1) 工場棟の形状についての説明が不足しておりました。評価書では、景観の予測条件に新施設の全体配置図を追記し、予測結果（モニタージュ写真）に先立ち施設の形状が判るよう、記述を改めます。 2) 工場棟の仰角の変化量だけに注目しているように受け取れる記述は改め、評価書では資料1の意見No. 10に述べたように景観全体の変化について記述するとともに、環境保全措置（施設外観の意匠及び植栽）を踏まえた評価に改めます。 |
| 5 | 土壌 | 「7. 8 土壌」について、ダイオキシン類の測定を表層土壌で実施していないのはなぜでしょうか。また、埋設廃棄物とは何でしょうか。 | 事業者 | ダイオキシン類の調査は、旧焼却施設の影響を確認するために実施しており、汚染の恐れが比較的多いと考えられる灰ピット等の底部土壌（当時の地表）を対象としています。 埋立廃棄物は、建設用地の一部（北側）が過去に埋立地として利用されていた時に埋立された廃棄物です。 |
| 6 | 温室効果ガス | 本準備書の内容からは外れますが、要約書7-72 表7. 11. 3で、現行の4施設から2施設に統合されたあと、新田清掃センターのCO ₂ 削減量が6%ほど増加することが示されています。この理由は何でしょうか。今後新たな太陽光パネルの設置計画や、発電など施設稼働の効率化を進める予定なのでしょうか。 | 事業者 | 4施設から2施設への統合による新田清掃センターのごみ処理量増加に伴い、発電・売電量が増加しているため、2施設体制時に新田清掃センターのCO ₂ 削減量が6%ほど増加する予測となっています。 |